

## 宝塚市教育振興基本計画第3回検討委員会記録

日 時：平成21年10月28日（水）午後6時30分～8時50分

場 所：宝塚市役所 2階 2-4、2-5会議室

出席者 検討委員会委員 10名

教育長、管理部長、学校教育部長、社会教育部長、管理室長、学校教育室長、  
学校教育課長、社会教育課長ほか3名 計 11名

傍聴者 無し

1. 進行及び日程について事務局説明
2. 「宝塚市教育振興基本計画にかかる今後の基本的方向性・目標の設定」に対する各委員の意見書（別紙1）についての発表と説明
3. 次回開催予定について

**基本的方向性・目標を設定するため、各委員から意見を提出してもらい、これを「平成21年度宝塚市教育振興基本計画にかかる目標の設定一覧表（別紙1）」に取りまとめ、この表を基に、当初事務局案を若干組み替えた「（仮称）宝塚市教育振興基本計画にかかる今後の基本的方向性・目標の設定」の中のどの部分に該当し、また、新規に追加、あるいは修正する必要があるかについて、意見交換を行った。**

### （別紙1）No.1

目標は、「家庭の教育力向上を考える」。

- ・ 今後の基本的方向性、目標の設定としては、別紙2のP3の方向性『市民全体で子どもを応援する』というところの施策『家庭、地域との連携子どもの発達支援』に該当。
- ・ 具体的な事業は、No.1は、「預かり保育」、それから「放課後子どもプランの充実」、それから「子育て何でも相談（サロン）」、それから「コミュニティー子育て」があるが、重点事業「子育て支援事業の充実」の中盛り込んでいく。
- ・ 「放課後子どもプラン」については、子ども未来部の所管であるので、記載について、事務局で検討する。

### No.2

目標は、「確かな学力」の確立、特に豊かな言葉の力を育成する」と「文化伝承、それから生活の知恵を学ぶ」。

- 具体的な事業としては、「本の読み聞かせ」、これも就学前からというところがポイント。「読書タイムの励行」、「文化の伝承タイム」を就学前から実施するということ。
- 別紙2のP1『時代に応じた生きる力の育成』のところに重点事業「読書活動の推進」として新たに加える。
- 宝塚は、読書活動に力を入れていきたいと考えており、就学前から少なくとも中学校までということ念頭に置いた事業の組み方をして欲しい。
- 重点事業に入れることに異存はないが、前回の構成では、『確かな学力を確立する』という目標に含まれていたもので、それと内容がかなり違う。「読書活動を推進する」ということなら、そっちに絞って書いたほうがいい。この今の枠組みだったら、重点事業のひとつとして『読書活動を推進』というのがあった方が良く理解する。

### No. 3

目標は、「公教育として質の高い教育の保障」。

- 具体的な事業としては、幼・保・小・中の教員による異校種の教員同士の連携で、できれば一貫したカリキュラムをつくっていききたいというようなもの。別紙2の重点事業としては、『学校園における研究体制の充実』にほぼ該当するのではないかと。  
また、「従来の研究会の仕方を再検討し、効率のよい質の高い研究のあり方」、それから、「幼稚園・保育所の教職員に対する合同研修を促進する」、これも同じ。  
これら「公教育、質の高い教育の保障」ということの内実は研究体制、しかも連携、異校種が連携したということに入るかと思う。

### No. 4

目標「就学前からの公教育の充実」。

- 就学前ということで、具体的な事業としては、「公立幼稚園の3歳児保育の実施」、「未就園児の親子へのサポート」、「預かり保育」、「公立幼稚園での給食」、「認定こども園の設置」となっている。これらは、別紙2のP2の『幼児教育保育の充実』の『事務執行等成果指標の対象となる主要事業』の欄に含まれると考えられるが。
- この『幼児教育保育の充実』の対象となる主要事業の中で、『公立幼稚園の適正配置』と、認定こども園との関係性がどうなっているのか。また、3歳児保育は、新しい事業として起こせるかどうか検討が必要ではないか。さらに、この主要事業に「預かり保育」は入っておらず、入れたほうがいいのかどうか、提案者に、確認させてもらったほうがいいと思われる。
- 【事務局から】 背景説明だけさせていただくと、「預かり保育」という形の

ものはまだ実施はできてないのですけども、今幼稚園では、小学校の参観日の支援という形で行っているものがあり、小学校に通っているお兄さん、お姉さんがおられたら、その参観日をゆっくり見てもらうという意味で、参観日の保育をやっている。ここで提案されている「預かり保育」は新規事業として、今後、ニーズが高まってくれば、延長保育も含めて、検討していこうやないかという意味合いで提案されていると思う。「3歳児保育」、「預かり保育」公立幼稚園における給食制度も新規事業ということになる。

- ・ 10年後の子どもたちを見据えてということなので、新規事業となることも理解して提案している。食育ということをしごく言われている現在、子どもたちに質の高い保育をするということと同時に、きちっとした体をつくり上げていくためには、やはりいい食材を、子どもたちに与えるということ、本当に大切だと思う。今、家庭でなかなかきちっとしたものを食べてこない子どもがたくさんいるという中で、本来であれば、家庭の味は幼児期、特に3歳児までに味わわせておくということが必要なのであるが、それがなかなかできないという現状がある。そういうことを考えると、人間の一番大切な生きる力の源となる体づくりということ考えた上で、こういうことも一つの方向としてできないだろうかということまで上げさせてもらった。

## No.5

目標は「子どもたち全員が「心身ともに健康」に」。

- ・ 提案の中の施策として、①から⑬のように、子どもたち全員が心身ともに健康になるためには、さまざまな事柄が必要だけれども、一番根っこにあつて、それほどさまざまな工夫とか、財政面も含めてハードルが高くて、着実に成果が上げられる、その具体的な事業として「読書活動の充実」をあげていただいている。これは、先ほど提案 No1と同様に、別紙2のP1『時代に応じた生きる力の育成』の中に追加してもらおうということにしたい。
- ・ 【事務局から】別紙2のP2ページの上段に、『学校図書館の充実』という重点事業があるが、読書の推進という観点から、ハード整備と、図書などのソフトの活用といった、その辺の整理がいろいろ思われる。図書館を充実させるというのは、逆に言ったら読書活動を推進する目的で図書館の充実が上がる。ちょっとその辺の関連性をもう少し明確にしてもよいのかなと考える。
- ・ 今、事務局から意見のあつたハードかソフトかという違いがあるが、大きい方向性で言うと、読書活動を推進するのは子どもの力で、それを支える仕組みとして学

校図書館があるというふうに考えているので、その表現あるいは記載について、事務局のほうでいい工夫があったらお願いしたい。

## No.6

目標は、「みんなが安心して登校できる、それから夢を持ち、ともに支え、励まし合いながらそれぞれの夢の実現に向かっていける」、「家庭、学校、地域が連携して、市民の力で子どもを育てる」、「周りの環境と、そして自分を大切にする」。

- 具体的な事業としては、「開かれた学校づくりの推進」、これは既に「オープンスクール」という形で主要事業の中にあつた。それから、「生涯スポーツ推進」というのは、別紙2の『生涯を通じて学ぶことのできる環境を充実する』の施策として『市民個々のスポーツライフを支援する』というのがある。これが提案者の「生涯スポーツ」と一致しているかどうかであるが、多分大丈夫だと思う。
- それから、「教員の増員」、「学校支援ボランティアの増員」、「放課後の地域ボランティアによる希望者対象の寺子屋事業」、これらは新規事業の提案。また、「各公民館を利用した各種講座」、「子育てサークルの充実」、これはこども未来部の所管事業になるのかもしれない。
- 「市立図書館の充実」は、先ほどのハード面のところに入る。「宝塚特有の特色ある教育」、これは総合的な学習として考えられるので、別紙2のP3の『体験学習の充実』のあたりに入れられるのではないかと思う。
- 「教員の増員」というのは、別紙2の『教員の確保』に含まれるのではないか。ここには、主要事業としては何も入っていないので、これはどんなふうに展開するのかということが我々もちょっとはつきりわからない。「学校支援ボランティアの増員」、これは多分別紙2の『市民全体で子どもを応援する』という方向性に含まれるのであろうが、ここにはない。これをどんなふうに位置づけたらいいのか。
- 「公民館を利用した各種講座を大学やNPOと連携しながら実施」というのは、別紙2のP3施策『学びの成果で地域を変える』の中の重点事業『誰もが学べる場と機会を整える』あたり。
- 後で議論する、「教職員の増員」のところは、わからない。「学校支援ボランティア」というあたりは、もし入れるとしたらどこになるのか。施策からいくと別紙2のP2『学校教育を担う人材の確保・育成』というところか。今の議論に出た「学校支援ボランティア」は、『学校教育を担う人材の確保・育成』の中のどこかに位置づけるということか。
- 【事務局から】別紙2のP3社会教育の施策『学びの成果で地域を変える』というところで、主要事業として「みんなの社会教育の先生」の確保とあるが、これは、学校支援を意識したところで書いている。

この「学校支援ボランティア」については、いずれの施策に入るかは、本日

提案者が欠席のため、その意図を確認したい。

- あとちょっと気になった、「学校事務のデータ化」。それと、「自分の研修を深める」というのは、これは研修のところでいいのか。
- 【事務局から】 これは、要は学校関係で、事務が非常に増え、先生の負担となっており、自分の時間をつくって、研究を深める時間がない。そのため、事務関連のデータ化など、そういう部分の統一化を図りましょうということで、別紙2のP2の『学校教育を担う組織の充実』の『事務改善の促進』という項目が該当すると思われる。

## No.7

目標は、「子どもが子ども本来の生活を送れる」。「一人一人の子どもが安心して過ごせる社会」。

- 具体的な事項は、「子ども一人一人のニーズにあったきめ細かな教育をするための定員増」。これは特に教育困難校と言われる学校を中心にして教員の定員増を諮り、後は、「備品・消耗品費など学校予算を確保する」という提案である。十分な教育活動ができるようにということで、教育費の補助というのが、どこかにあったと思うが。
- 「備品・消耗品費など学校予算を確保する」は、学校の予算をもっと増やせということ。別紙2 P2のどこかに入るものではないか。学校教育を担う組織か人材かのどちらかに入る。前半の「子ども一人一人のニーズにあったきめ細かな教育をするための定員増」は『教育福祉課題の解決』のところに入るのでは。
- 「定員増」という提案理由は、とにかく人が欲しい、学校現場に人が欲しいということ。なぜなら、現在、学校の抱える問題として、教室を飛び出ていく子どもや、授業中に数名で出ていく子などがおり、それに対応できる人が欲しい、という意味で書かせてもらった。また、「備品・消耗品費など学校予算を確保する」というのは、いくら教材研究したくても、教材にできる物品が無ければ何もできなくなってしまう。だから、できるだけ教育機器とか、そういうものを購入できるような方向に持っていったらいいのでは、という意味。
- 場合によったら、学校単位で教材開発をするような予算を確保するというのも重要なのでは。というのは、教職員のパワーアップ関係で何か研修を受けたりとか、個別指導を受けたりという事業があるが、そういった関連で、個別の先生が取り組まれた教材開発みたいなものに、お金があつて予算があればいいと思うが。
- それだけではなく、例えば画用紙1枚にしても、高価なものだけではなくて、身近にあるものも予算確保して欲しいという意味。
- 単にこの意見に対する私の関心としては、何か目的だけ定めて一定の幅のある金額をもらえたほうが便利なのか、あるいは何か物品そのものがちゃんと届いたほう

が実際問題として便利なのか、という話なのだが。

- 学校で買いたいものというのを検討委員会で検討して、今年度はこれを買うかとか、例えば使えなくなってきたから音楽の楽器が欲しいと、そういう感じで学校に配分される予算を確保して欲しいという意見であり、学校に物品を提供してもらうというのではなく、予算の幅を広げてほしいという意味合いである。
- 「子ども一人一人のニーズにあったきめ細かな教育をするための定員増」の部分については、二つのとらえ方があって、教員を増員する視点からいくと、別紙2のP2『教員の確保』のところであるし、むしろ問題を抱える学校で、何かスペシャルな問題の対処をとるのであれば、P1の『教育福祉課題の解決』の重点事業『生徒指導の充実』に入るのかなと思う。この場合としては、どちらかと思うのだが、何か、ただ単に、一般的に教職員が増えても、必要なところにはないと仕方ないかなというふうと思うのだが。
- 児童・生徒に個別に対応できることが第一なので、普段の学校生活のなかでも、いろいろな加配の教職員がいると、急なことに対応できる。問題を抱え、困っている学校へ教師の増員をとるという思いもあるが、いろんな場面で、児童・生徒に個別に対応できるよう、増員が望ましい。
- 【事務局から】実態的には、提案はよく理解ができる。ただ、教員の配置基準というのは、市教育委員会が単独で取り扱う問題ではない。それと、いろいろ人的支援に関しては、現在も実施しており、これらの様々な事業の延長線上で、テーマを決めて実施するほうが効果は上がるだろうということで、単なる増員というのは、ちょっとどうかなと思う。ただ、教育困難校に対しては、現実の我々が抱えているテーマであることは確かである。教育活動予算についても、これもイメージはよくわかる。限られた財源というふうな、やっぱり頭にそれをつけた場合に、今の配分方法が果たしていいのかどうか、そういうふうなところを少しきちんと見きわめるためのエネルギーを事業として起こすのか、その辺のことというふうに解釈させていただいた。

## No. 8

目標は、「確かな学力を身につけた子どもの育成」。

- 具体的な事業として、「学力定着度テスト」というのは、別紙2のP1『教育福祉課題の解決』のところの2つ目にある。それから、「魅力ある授業づくり」は複数のところに関係あると思うのだが、学校教育を担う人材のところの研修体制とか、そういうところが充実すれば、魅力ある授業は可能になるのではないかということ。  
また、これはたくさんのところに関係してくると思うが、例えば別紙2の重点事業『理数教育の充実』のところ、『理科おもしろ推進事業』で外部の先生を呼んでくるとか、そういうところにも対応するものではないか。それから、「スクー

ルサポーター」は別紙2のP1『スクールサポーター事業の充実』のところ。「補習授業の充実」は、現在、各学校で、特に学校全体としてやっているわけではないということだったけれども、たしかどうしても何かよく授業がわからないとか、宿題を余りずっとやってこない場合は、それに対して少し子どもに残ってもらうことがあると聞いたが。補習授業という形では、実施していないという実態は紹介してもらった。

- 学力の底上げをお願いしたいと思い、提案した。格差が余り広がってくると、やはり授業についていけないという問題、教室に入らないとか、そういうふうな実態がどうしても出てくると思う。勉強がわからないと学校もおもしろくないのでは。
- もしもそういうことが現場の事情とか踏まえて可能であれば、実現をとということだと思ふ。

## No. 9

目標は、「規範意識を身につけ、豊かな心を持った子どもを育成する」。

- 具体的な事業は、「道德教育」、これは別紙2のP1にある。「生徒指導の充実」、それから「学校における基本的生活習慣」があるが、これは、別紙2のP3に、『基本的生活習慣の確立』というのはあるが、これは学校も含まれると考えていいのだろうか。
- そういう意味で、規範やルールなどいろいろ守りましょうということ。道德教育とかそういうところにも絡んでいる。
- 「子育てに関する学習機会の提供」で () 書きで、幼稚園と書いてある部分は、結局、幼稚園など、一番子育てに関心が高い、ある意味手がかかるところで、子育てに関することをずっと学ぶ機会があればいいと思ふ提案した。
- これは現状どうか、幼稚園では。母親とか親を対象にした学習機会を提案されているが、どうなのか。
- 例えば、保育所では、保護者会を作ってお金を徴収して講演会を開くといった方法をやっていると思うが、幼稚園のほうの現状はどうか。
- 【事務局から】子ども未来部へ事業が移っているが、実は幼稚園の保護者を対象に「家庭教育学級」というのをやっている。ただし、いま一つ広がりには欠けるというふうな状況を課題として抱えている。
- 幼稚園のPTA活動の中に研修部があり、今言っていた、その「家庭教育学級」というのを、年に5回ぐらい実施している。その中で外部からの講師を呼んで、子育てを学ぶ機会を提供している。

## No. 10

目標は、「子どもから大人まで、社会的な弱者とか幼い者に対する養護性、共感

性、当事者性が高い子ども、それが大きくなったら大人になるという、そういう社会を実現するための一つの方策として、具体的な事業として、児童・生徒が継続的に赤ちゃんと幼児、あるいはその親と触れ合えるような体験学習を繰り返すような取り組みができないか」ということ。

- これは恐らく地域の人とも連携してもらわないといけないので、別紙2の方向性のところでいうと、『市民全体で子どもを応援する』というところのどこか、『体験活動の充実』か、『子育て支援事業』になるかもしれない。実際に高校では、家庭科の授業の一環として、そういう触れ合いをしているのと、それから『子育て支援』の関係だと、「次世代子ども子育てプラン」、「子ども子育て応援プラン」の中に、こういう「触れ合い体験学習」というのが位置づいているので、そのあたりに入れられたら入れていただきたいということ。
- あるいは、『時代に応じた生きる力の育成』のところではないかと。むしろ中学生とかをターゲットに保育所や幼稚園に行ってもらって、また、触れ合うプログラムということであってもそんなに違いはないと思う。

#### No. 1 1

目標は「主に学校に焦点を当て、学校評価に関することであるが、学校が自らいろいろなもの、特性とか課題とか活動を分析して改善していくと、地域や保護者にそれが明確にアピールできる。また、それにより保護者や地域が学校を信頼し、協力するという状態を目指すということ」、それから、「既に評価をしている等、みずから課題を明瞭化できるのであり、評価資料を整理して残し、これを利用する。また、管理職や主幹教員といったミドルリーダーが機能していくということ」。

- 事業としては、「学校コンサルティング的な取り組みを加える」ということ。
- 新規になるのかどうなのかわからないが、最初は、コンサル的な組織に委託をして実施するが、やがては校長先生とかリーダーシップのある方々がそれぞれの学校の中で取り組んでいけるようにするのも一つの方法。もちろん、最初からそれができるのであれば、一番いい。これは、これからいろいろ外部評価、第三者評価と言われている時代だから、もう学校の中からそういう自分たちで積極的に自己評価し、それが十分機能するような体制を早いうちから整えておいたらどうだろうかという意見である。
- あえて言うなら、別紙2のP2『学校教育を担う組織の充実』である。けれども、これは、小学校などの現場のほうで、例えば外部のコンサルティングがあればいいのというようなニーズがあり、雰囲気なりがあるかどうかということ、慎重に聞いたほうがいいのかと思う。もちろん、専門的な詳しいご意見もあるとは思いますが、私がいるんな教育関係の学会なんかで吸収している限りにおいては、まだまだ



学校評価とか、コンサルティングの水準というのも、全幅の信頼を置けるほどのものではないと感じているので。そういうものを求めているという環境ではすごく効果を発する場合もあるようなので、まさにそういう雰囲気、土壌があるかどうかということを考えないと、コストが高いから。そのあたりを考えていけばいいと思う。

- そういうことをコンサルティング会社などに依頼しているような事例というのはあるのか。
- コンサルティングに依頼するかどうか、把握してないが、少なくとも評価に関する学会が年に2回、全国的な日本評価学会とかあって、継続的に学校評価の報告なんかはあるにはある。成果は上がっているという報告も結構あるのですが、コンサルタントを受け入れるというのと、学校評価を自分でやるというのは、まただいぶ次元の違う話。学校の側で、外部の力があつたら、もっと改善できるのにとか、外部の知恵を求めているというご事情があるならば、コンサルタントは有効だと思う。それがないんだつたら、何かかえってうまくいかないようだつたら、よくないかなと思う。

#### **No. 1 2**

目標は「互いに喜び合い、尊重し合う人間関係づくりの育成」。

- 具体的には、事業になるかどうかはわかりにくい、「すずめの学校を取り戻す」、「学校長・教師の資質向上を図る」ということ。これは、別紙2のP2『学校教育を担う人材の確保育成』の『管理職育成、主幹教諭の有効活用』というこのあたりで、そういう意味でいいのかどうかということ。

#### **No. 1 3**

目標は「安心して落ちつける居場所づくり」。

- これは「道徳教育」が入っている。「偉人伝を読む」というのが、読書活動の中でそういうことを意識していくということで対応が可能かどうか。

#### **No. 1 4**

目標は「日本を誇るような日本人を育成する」。

- これは「歴史上の人物とか史実を学ぶ」ということで、これは歴史教育になるのか、読書活動になるのか、難しいところ。こういうものも教材の中に入れていったらどうかという意見。

#### **No. 1 5**

目標は、「生命を大切にすることの育成」。

- 具体的な事業としては、「詩・本の音読」で、大きい意味では読書活動ということである。

#### **No. 1 6**

目標は、「美しい日本語を話す子どもを育成する」。

- これもやっぱり読書というか、国語になるのか、そのあたりの教育内容の充実ということが上げられている。
- 規範意識を身につけるとかということを入れている。この規範意識というのが、随分変わってきてるように思う。現役の校長先生とお話しした際にも、そうですねと、わかっていただけるが、今の子どものお母さんがそのように感じているのかどうかと思う。やはり子どもを育てるといことは、家での厳しさも必要。  
その意味において、もっともっと日本をつくった人たちのことを教育の中に入れて欲しい、それが古いというのではなくて、日本の精神であるということを読み取る教育をしてほしいと思う。
- こういう計画をつくる時に、あまり具体的な事業まで絞ってしまうと、これから5年とか10年というスパンでやっていくことになるので、できたら、こういうことをしたいという、その目標に書いてあるようなことのほうを、重点的に話し合っていて書いていったほうが良いと思う。そういう意味で、上げていただいたこれらの事業は、例えばひとつの例ということなのか、それとも、これは是非このとおりやって欲しいということなのか教えて欲しい。
- ひとつの例である。だから、どれかの重点事業に吸収されるかなと思ったり、皆さんの意見と最終的には、同じ方向かなと思いがらだった。もっと歴史上の人物の生き方から、例えば、野口英世の話で、やはり母親の存在があり、そういうことも学びながら自分の子どもを育てていって欲しいと願っている。
- そういう意味であつたら施策とか重点事業に書いてある中で似たようなのを探して、その表現がちょっと違うので、もう一息追加なり、修正するなりして、提案されている内容に近づくようなものをという形で探していくのが良いと思う。
- ふと思うのは、何か「読書活動の推進」とか、例えば「道徳教育」とか、あるいは、まあまあ場合によつたら何か「総合的な教育」そういうところに入っていくのかなと思ったりしながら伺っていた。
- 宝塚には、読書タイムというのがあると聞いたが。
- それは宝塚市全体の学校がしているかどうかということとは言えない。
- できるだけ事務局とか庁内検討会の人に意識していただいて、またもう一回、次回、検討する時間があるので、そのときに案を出してもらってはどうか。
- 日本の国に対する意識が非常に少ない。ある種、幸せ過ぎるといふか。何を目標に生きているのかと言いたい。本当に人間として生きてきて日本の国は、素晴らしいと思う一方で、国の役に立つのだという意識を持った子どもが、今、非常に少ないと思う。そこまでの意識を持った教育というものをして欲しい。
- もちろん、今の意見に賛成される方もいると思うが、他方で、みんなが、そういうふうになっているか、ちょっと首をひねるところがあると思う。私たちの委員会の中も、まだ始まって3回ぐらいしかたっていない面もあり、まだまだどんどん発言

してという雰囲気でもないと思うので、最終的にはみんなで意見を出し合って、多くの方がそれでいいのでは、ということだったら事業をまず落とし込むというのもある。また、そうじゃない場合は、例えば報告書とかの中でこういう意見も委員の中からあったという形で記録に残すやり方もあると思う。

委員として入っていただいて、熱心に言っていただいて、どこにも残さないというのはないとは思いますが、そういう形で、また、もう少しみんなで議論していくということではいかがか。

まだまだ、いろいろな意見があると思うので、委員が1つ言ったから必ず案に入れるとしてしまったら、ものすごい体系なりかねないので、一度みんなで意見を出し合い、その後でまた相談するというようなことでいいのではないかと思う。

## No. 17

目標は「地域全体で子どもたちを育てる社会の実現」、「塾通いの要らない確かな学力の確立と学力水準の向上」、とりわけその中で「理科教育の充実と科学する心の涵養」、それから「スポーツ環境の充実」と「スポーツ振興を通しての子どもたちの体力水準回復・向上」、大きく3つの目標がある。

- 具体的な事業としては、理科推進員、理科特別講師などの外部人材を積極的に発掘し、活用を図る組織として、「理科人材コンソーシアム会議の設置」、これがどこかの都道府県でこの間の資料で具体的に実施されている。
- さらに、「理科外部人材の発掘と活性化を広く学校支援ボランティアとなる外部人材の発掘にも拡大させる。学習支援活動、部活動指導等の充実に発展させる。塾通いをしなくても確かな学力を確立、学力水準向上につなげる。これは地域全体でということ」。それから、「学校支援地域本部との連携、あるいは学校支援地域本部そのものに外部人材の発掘と活性化の機能を持たせることも検討課題である」という意見。
- 別紙2のP1の『理科教育の充実』の中に、『理科おもしろ推進事業』というのが現在の外部講師のシステム。これをもう少し、北海道で実施されているその『理科人材コンソーシアム会議』の設置までいけないだろうかというような提案だと理解した。ただし、その北海道の資料を読ませてもらうと、JSTというすごく大きな法人が補助金というのをを出してもらって、大学と行政というか、地方自治体と一緒にあって、非常に本格的な人材発掘と教育システムというのをつくっており、全くそれと同規模とかということは難しいのではないかという話は、前回行った。
- ただ、そのシステム、同規模ではないけれども、それをよく似た形で機能させることは可能じゃないか、また関連のところで、今の理科おもしろ推進事業をさらに充実させるような方向でお願いできたらというふうに思う。
- 「学校支援地域本部との連携」のところは、先ほどのサポーター関係のところと

似ており、「スクールサポーター」とそれから「学校支援ボランティア」を一緒に入れて、『スクールサポーター事業の充実』をちょっと大きい意味での考え方に変えてはどうか。

- これはまさに『人材コンソーシアム』という名前も含めて、北海道の事例のパクリじゃないが、名前をいただいて、宝塚にもいろんな人材おられると思うので、こういう人材発掘というような組織が、理科に限らず、いろんなそういう学校をサポートしてくれる体制をつくれないうか。ただ、都道府県単位でやっていくのと市町村と少し位置づけが違うはずと思うし、そういう意味では同じものをそのままというのは、予算面からも難しいのかもしれないが、なかなか待っていても、皆さん手を挙げないのが実情だと思う。

個人情報の問題もあり、発掘するということのスキルというか、やり方については必要なのだと思うけれども、予算面の限りはあるとしても、宝塚にいる市民の人材あるいは企業なりとの連携を図る、そういうような部署というか、会議というか、NPOのようなものがあるかもしれないが、予算をあまりかけずにそういうような機能を持たせたものと思う。手を挙げた人からやるだけではなくて、人材を発掘していくような仕組みというものが考えられないか、一度ご検討をいただきたいと思っている。

## No. 18

目標は「子どもが人を大切に自分を大切に生きていけるような社会」。

- 具体的な事業としては、「講演会」、「道德教育」、「小・中でもお泊り保育」みたいなことをしてもいいのではないかとということ。これはもう少し解説をしていただきたい。
- 子どもが成長して行って社会に出ていくときに、薄っぺらい人間関係じゃなく、ちゃんとお互いが信頼し合えて、本音が言い合える、そういう人間関係をつくってほしいと思ったら、やはり子どものうちから、クラスの中で何か絶対信頼できる友達を1人つくるとか、何かそういう人間関係、人と人のつながりというの築き方というのを学校を通して学んでほしいと思っている。
- 「小・中でもお泊り保育」というのは、保育園で1日みんなでお泊り保育があり、そういうものを小・中学校で同様に行い、夜通し話したり、親密になってお互いに話せるとかというような場というのを持てたらどうだろうかと思う。
- 施策の「行事をもっと大切に」に関しては、もうちょっと行事に力を入れて欲しい。運動会であったり、文化祭であったり、音楽会、遠足など、クラスみんなが一丸となって頑張っていくというような機会や、場面を強めるというか、ふやして欲しいと思う。
- 学校行事の中で一丸となるという共同するとか、協力するとか、そういう仕組み

を入れていくということ。運動会や文化祭自体はあるんだろうけれども、その中身を考えるとということと理解した。

- ・ 提案の趣旨は、登山などで、みんなで無理やりに登って、しんどい体験を通じてつながりを深めていくとかということ。何かそういう行事の面で工夫をするということになるのかなという印象では思っている。他方で難しいなと思うのは、この社会、つながりたいと思ってもつながれない人がたくさんおるわけで、それでも生きていくようにしないといけないから、どうしてもそんな中で無理やりつながらなければならないという機会をつくり出すのが難しく、人為的にそういうハードなイベントを一緒にやって、その中でつながりつくるようにしたい、何か学校の行事でそういうものをしてほしいというご趣旨と思う。
- ・ 別紙2のP3の『学びの成果で地域を変える』の『人と人のつながりを築く』の主要事業のこの3つ目のこのサマースクールというのは、学校でしているのか。
- ・ これは公民館活動をされている方々が、夏休みに小学生、中学生に対して自分たちがやっていることを一緒に学んでもらおうというもの。だからいろんな活動、例えば調理実習をされたり、てん刻という字を彫るものであったり、ゆかたを縫ったりとかそんなことを夏休みに子どもたちに提供していただくというのがこのサマースクールである。
- ・ あえて言うと、別紙2の『時代に応じた生きる力の育成』で、また新たな項目を上げる、または『体験活動の充実』が、近いかなと思う。それが例えば先ほどの道徳教育の充実とつながるのかも、ワンセットにできるかもしれない。
- ・ 確かに合宿などをすると、人間関係深まるような気がする、深まる。そういうのを意識的に回数を多く入れてきたらどうなるだろうかというのは個人的な興味がありますけど。

## **別紙2への意見の反映を終え、全体を通して、方向性や施策、重点事業、主要事業の枠組みなどについての協議**

### **【重点事業でも重要なものは、施策へ記載】**

- ・ P1の『教育福祉課題の解決』と『時代に応じた生きる力の育成』の中で、重点事業として上げられているものが、結構どれもテーマとして大事で、結局教育の中身どんなことをやるという部分に関する重要テーマが列記されている。何かそういう切り口に変え施策を修正あるいは追加するか、または、それらの中で重点事業として上がっているもので大事そうな、いっそ施策と呼んでしまってもいいと思う。

### **【取組の表が方向性、施策、重点事業、主要事業と細分化され、わかりにくい】**

- ・ 表を見た場合、基本目標があり、そして方向性や施策、重点事業、さらにその下

に主要事業があると、なにか欄がいっぱいあり過ぎてわかりにくい。

- ・ 外部評価をする際に、この方向性や施策など各項目ごとに評価をするのであれば、これは大変である。しかも、また後で中核的なメッセージというのを議論をしてつくっていきたいということなので、さらにもう一段ふやすと階層が何段にもなり、ややこしくなりかねない。
- ・ 方向性は別として、何かイメージとしては方針みたいなものを入れて、施策と重点事業というのが今何か別に切られていますけど、扱いとしては実態的にもう一緒に扱ってもいいんじゃないかと思う。例えばこの別紙2のP3に、施策として『歴史と文化を守り生かす』と重点事業『文化遺産の保全継承と更新』があるが、他市の施策でも同様のものがあり、評価の際のヒアリングで、このことについて質問すると、結局遺跡を掘って保全して、それを観光に活用して、それを担う市民ボランティアみたいなんを育てるという中身のんだという説明をされる場合が多い。つまり、実際には、この施策と重点事業が同じ内容であり、一体のものとして扱ってもいいと考える。

#### 【重点事業と主要事業の区別がつきにくい】

- ・ 表の項目の名称が、施策があつて重点事業があつて主要事業になっているが、ちょっと区別しにくい。結局整理すると、主要事業というのは、多くの事業の中で、何か今の時点で、特別に取り立てて書いて上げておく事業というような意味合いだと思う。確実にこれはやりますということで上げている事業だと思うが、その横に重点事業と書くと、これは何か主要事業の中の大事なものを重点事業と呼んでいるように見えてしまって、ちょっと誤解を与えるのではと思う。重点事業を施策の方向性とか、何か名称を変え、そんなふうに整理できたらわかりやすいのかなと思うが。施策は施策のまま、重点事業と書いているのを施策の方向性というぐらいにしたらどうか。

要は、目標とか方向性などのビジョン的なものが、まずあつて、それから施策があり、その下に事業があるという3段階ぐらいのほういだれにとってもわかりやすいのではないかと思う。

- ・ 最初に一番左に、基本目標を少しかみ砕いた方向性があり、そこでも方向性という言葉を使って、1つ置いて、現在重点事業と書いてあるところを施策の方向性とする、方向性が2つ出てくることになり、ちょっとややこしくなるのでは。
- ・ 言葉の問題だけであるが、またちょっと工夫をしてみたい。とにかくこのP1の施策3つの割り振りがいまいちすっきりしていない。別紙2のP1の重点事業の中には、P2の重点事業より重いものがある。むしろ施策的には重いものが多いように思った。したがって、現在の重点事業と書いてあるものの幾つかを施策のほうへ持ってくるという方法もあるかなと思う。

**【各施策や重点事業などの表現を統一して欲しい】**

- ・ 別紙2の施策、重点事業はほとんどが、語尾が体言どめになっているが、P3の方向性『生涯を通じて学ぶことができる環境を充実する』のところは、『学びの成果で地域を変える』とか、『発信する』という形になっている。例えば『学びの成果による地域の活性化』とか、『新鮮な学習情報の発信』などのように、少し統一してはどうか。
- ・ もう一点、一番最初の『教育福祉課題の解決』という施策名は、すごくわかるのだが、例えばその下段の『健やかな体づくりの推進』は、いろいろと体づくりに向けての課題はあるのだけれど、その課題を踏まえて推進するという意味なので、それから言うと、『教育福祉も推進』というような形でもいいのではないかなというふうには思った。
- ・ **【事務局から】** 施策及び重点事業の表現については、市民の方が理解しやすい言葉にしたいので、次回提案させていただきたい。

**【計画の進行管理について事業として取り組みをして欲しい】**

- ・ 今日の議論も踏まえて思うは、この計画をつくった後の評価とか見直しの体制について提案したい。社会経済情勢の動きも激しいし、今後、いろんな事業、アイデアも出てこようと思うので、評価と絡めながら、こういう計画を部分部分でも改めていくという体制をつくるというのを計画のどこかに、例えば、別紙2のP2の一番上に評価をやるということになっているが、そういうことに絡めて組み入れられないかと考えている。

本日の議論のように、例えばこの日本のよさをもっとアピールするとか、理数教育を重視するとか、子どものつながりを深めるというような、それぞれ良いアイデアが出てきている。そういう市民の方からのいろんな事業のアイデアみたいなのを、できたら毎年聞いて、取り入れられるものは取り入れられる仕組みとか、そういうものがつくれないか、それを評価と絡めてできないかということ。

昔風に言うと、計画の進行管理なのだが、P2の『教育委員会制度の充実』の主要事業『教育委員会事務の執行評価事業』を少し書きかえるような形でそういうことを入れられたらという意見である。

- ・ **【事務局から】** 計画を見直していくということも大事だと思うので、ぜひ検討したい。

**【基本目標の見直しはできるのか】**

- ・ 基本目標を見直しはできるのか。『自分を大切に、人を大切に、故郷を大切に作る人づくり』を『故郷を誇る人づくり』に変更はできないか。これは、10年後宝塚

の公立学校を出てよかったと誇れる子どもづくりをできたらいいなと思った。

今後、検討して欲しい。

#### 【中間メッセージの作成について】

- ・ 委員から、今後の10年、5年でもいいと思うが、ここは特に力を入れてしていくのだということを示すものがあったとしてもよいのではないか、という意見があった。これまでの協議の中で、委員の皆さんのかなり共通部分で、日本語とか読書とか、そういうものが大切だというご意見が多かったので、例えば、そういうものに、特に宝塚では力を入れていきますとアピールする必要があるかどうかを皆さんに検討してもらいたいというものだった。議論をお願いしたい。
- ・ 例えばこの基本目標と中核メッセージをどのようにすみ分けるかということ。  
一例として思うに、この基本目標というのは、ずっと本市でやってきた、ある種変わらない理念としたら、この中間メッセージは、これはこれでそういうものを置いておくということもいいと思う。この基本目標は割と落ちついたというか、非常に品のいいものであり、それに対する中核メッセージというのは、何かこの10年変わらずやっていくものなのか、割と毎年見直していく、キャッチーと申しますそのようなものなのか、例えばとにかく学力向上とか、文化的な人間を育てるとか、非常にわかりやすいメッセージになるようなものを考えているのかどうか。そういうことであれば、基本目標と中核メッセージ、何か性格分けができるのだったら違うものであってもいいなと思うし、あまり性格や内容が、変わらないようなものになるのだったら、特に置かず、この基本目標でいいような気がするのですが。
- ・ 毎年変えると言う意見ではなかったと思う。ただ反対に、ずっと一緒だったら、それは基本目標と一緒にになってしまうが、どのくらいをめぐりに変えていくというご意見もなかった。1年ごとかどうかは別として、少し何年かしたら、1年でもいいんですが、変えていけるような合意をここで持っておいたほうがいいのでは。
- ・ あってもいいと思うが、その場合、基本目標と、今は方向性と呼んでいるもののその間に立つようなものと思っている。その時々の中での動きとか、方針とかで一言で言えるようなものをぼんと出せばいいかなと思う。
- ・ とらえ方がちょっと違っていたのかもしれないが、さまざまな主要事業があるが、その中で、今後10年間、コンスタントにずっと何をし続けていけば、私たちが思っている、こういう基本目標に達成するような子どもになるのだろうか、ということから、中核メッセージを置きましょうというような話だったのでは。

だからそれが先ほど言っていたような、例えば読書活動などをずっと続けていくことによって、豊かな言葉で自分を表現できる子どもを育成することができるというような、たくさんの事業の中でポイントを絞った具体的な、メッセ



ージが見えるようなものにしましょうということだった。

- 確実に皆さんが協力して力を入れてやっていけるものを選んで、それをずっと入れておくということ。中核的象徴的なシンボルと提案があった。

- だれもができる、確実に姿として見えるものでないとだめじゃないかなと思う。

でも、教育委員会をはじめ、各学校や保護者、地域も含めて、そういう組織の中で10年先の子どもたちの姿を描くわけである。そのときに、当然、子どもだけではなくて親もかかわる、学校もかかわる、さらに市民もかかわることになる。

そういったときに、お金も要らなくて、そしてかかわり合いできるのは、またこの「教育の方向性、心豊かに社会を担う」というところをつないでいくと、それは、やはり「読書」というような具体のもので宝塚市全員がそこにかかわっていったら、姿として見えてくるのじゃないかなと考える。

宝塚の教育環境って本がそろってるよねとか、親子読書が最近見られるようになってきたよねとかという、そういう言葉が10年先に聞こえたり、その力が子どもの姿としてあらわれてくるようになればいいんじゃないかなというふうに思う。本を読むということを推奨していったときに、決して反対をする人はいないと思うし、理解を得やすいのではないかなと思うので、今後検討していただきたい。

- 中間メッセージについては、まだ時間あるので、委員の皆さんに考えておいていただけたらと思う。

## 平成21年度 宝塚市教育振興基本計画にかかる目標の設定一覧表

No	目標	施策	課題	具体的な事業
1	家庭の教育力の向上を考える ～親育ちプラン～	<p>○家庭教育支援の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人で悩まず、地域社会で子どもを育てる体制をつくり、誰もが身近な場で、地域ぐるみの子育て教育支援が受けられるようにする。</li> <li>・関係機関との連携の充実、推進を行う。</li> <li>・幼稚園や保育所が地域における幼児期の教育センターの役割を果たすよう努める（幼稚園等を活用した子育てへの支援の推進）</li> </ul>	<p>○しつけられずに入園し、身辺自立や入園前の生活習慣が確立されていない子の増加</p> <p>○子育ての密集化</p> <p>○親の子育て不安の高まり</p>	<p>○預かり保育……親も共に参加し、未来の教員育成も念頭においた学生ボランティア・幼稚園の保護者OBの力も借りた「預かり保育」から子育てを共に行う。</p> <p>○放課後子どもプランの充実……子どもたちの体験・交流活動の場、保護者同士の交流の場づくりを推進。</p> <p>（園庭開放(キッズランド)）</p> <p>○子育て何でも相談(サロン)……子育て経験者、民生委員、保健士、カウンセラー等がチームを組み、子育てに関する相談や助言を行う。</p> <p>○コミュニティーで子育て……児童館、図書館、コミュニティ会館等施設を利用して、父親が子育てに参加できる。また、縦年齢で遊べる機会を設ける。</p>
2	「確かな学力」を確立する —豊かな言語力<ことば力>の育成— —文化の伝承から、生活の知恵を学ぶ—	<p>○コミュニケーションや感性・情緒の基盤である言語に関する能力の育成を行う。</p> <p>○人と人のつながり、ぬくもりを感じる直接経験、体験学習を取り入れ、不易な文化の伝承からモラルハザードを一掃する。</p>	<p>○話を聞かない子どもたちの増加</p> <p>○テレビ、ビデオ、ゲーム等の普及による子どもの発育に異変(単語、擬音、機械音を発する子どもたち)</p> <p>○本を月に一冊も読んでいない子ども増加</p>	<p>○絵本の読み聞かせタイムを持つ(就学前から小学校まで)良い絵本を読む。</p> <p>・生きた言語を語りかける重要性(人間の生のボイスシャワーで豊かな感性で育む)</p> <p>○読書タイムの励行(理解力・読解力・想像力の育成)</p> <p>○文化の伝承タイムを持つ</p> <p>・紙芝居、わらべうた、子守唄、昔話など口承文芸を取り入れ、コミュニケーション力、感性、発想力を磨く。</p>

No	目標	施策	課題	具体的な事業
3	公教育として質の高い教育の保障	<p>○子どもの生涯を見通す目を教員がもてる研修の機会づくり。</p> <p>○授業・保育の研究・準備に時間が費やせる体制づくり。</p> <p>○先取り教育におちいらず、“積み重ねの理論”を大切にされた教育実践の推進。〈それぞれの年齢にふさわしい生活体験が必要〉それぞれの校種の段階を確実なものとしていく教育を行う。</p>	<p>○子どものライフステージにジョイントが無く、つぎはぎの教育である。</p> <p>○教員が生徒指導や事務処理に手をとられ、本来の保育・授業に専念する時間が減らされている。</p> <p>○魅力ある保育・授業が行えない。</p>	<p>○幼・保・小・中の教員が、乳幼児・児童・生徒の発達や実態について話し合う。また、研修しあう会を年に数回行う。……現存の人権ブロック研究会のような会。</p> <p>生徒指導の会には、保・幼の教員も参加し、実態把握・日々の教育に生かす。……連携教育の充実</p> <p>○従来の研究会の持ち方を再検討し、効率の良い、質の高い研究のあり方を考える。</p> <p>事務員・授業サポートボランティアなど、人の確保を行うことで、教員が本来の保育・授業の研究ができる支援体制をつくる。</p> <p>○幼稚園・保育所の教職員に対する合同研修を促進する。</p>
4	就学前からの公教育の充実	<p>○乳幼児期の教育・保育制度の見直しと改善</p> <p>・保護者の教育費負担軽減策の具現化を行う。(公教育化・保育子育てサービスの充実化・効率化)</p>	<p>○子育ての孤立化と負担感の増大</p> <p>○幼児教育の重要性に対する認識が高まっている。</p> <p>○生活の格差がみられ、教育における経済的負担の軽減が求められている。</p>	<p>○公立幼稚園の3歳児保育の実施……3歳児からは幼稚園教育をと提する文部科学省の意向に添う</p> <p>○未就園児の親子へのサポート(3歳の誕生日から保育クラスの開設)</p> <p>○預かり保育の充実(※別紙2)</p> <p>○公立幼稚園における給食制度(小学校以降における食育教育の基盤づくり)</p> <p>・3歳までの味覚が一生に反映する。うす味等食生活の基本を乳幼児期から保障することで、子どもの健康を守る。食は脳科学に通じる。</p> <p>○認定こども園の設置により、教育・保育の一体化を図る。</p>

No	目標	施策	課題	具体的な事業
5	子どもたち全員が「心身ともに健康」に	<p>①『確かな学力』『豊かな心』『健やかな体』などの「生きる力の育成」。</p> <p>②『確かな学力』の確立。</p> <p>③情報化社会、国際化社会に生きる子どもたちを捉え、今日的な課題に対応した教育の推進。</p> <p>④人間形成の基礎となる道徳性など『豊かな心』の育成。</p> <p>⑤伝統や文化に親しみ、歴史・文化の理解を深める教育の推進。</p> <p>⑥体育・スポーツ活動や健康教育・食育を推進し、『健やかな体』の育成。</p> <p>⑦体系的な体験活動の推進。</p> <p>⑧いじめ、不登校等に悩む子どもたちの心を支える。</p> <p>⑨地域の教育力の向上(地域で子どもを育てる)</p> <p>⑩学校評価を取り入れた「開かれた学校づくり」</p> <p>⑪学校力の向上(組織力・指導力・伝統・地域力等)</p> <p>⑫教職員の資質の向上と健康管理。</p> <p>⑬安心安全なまちづくり</p>	<p>生徒指導上の問題 いじめ 不登校の問題</p> <p>家庭教育の不十分さ</p> <p>教職員の資質の向上</p> <p>児童生徒の学習に対する意欲のなさ(一概には言えない)</p> <p>教育環境の不十分さ</p>	読書活動

No	目標	施策	課題	具体的な事業
6	<p>・子ども達みんなが安心して学べ、毎日登校することが楽しい学校</p> <p>・子ども達が夢を持ち、共に支え合い励まし合いながらそれぞれの夢の実現に向け、育っていく学校。</p> <p>・学校、家庭、地域が連携し、それぞれの役割を果たし、全ての市民の力で子どもを育てる社会</p> <p>・周りの環境を、人を、そして自分を大切にすることの育成</p>	<p>・学校、家庭、地域が目標や課題の共有、連携や役割分担を強化、明確化し、協働による教育の推進。</p> <p>・子ども達が安心して学べる環境づくり、信頼される学校づくり</p> <p>・だれもが生きがいをもって地域社会に参画できる生涯学習社会づくり</p> <p>・地域の子どもの地域が育てる、地域が家庭教育を支援する体制、環境づくり</p> <p>・教員自身が研修を深めたり子どもと向き合う時間、環境をつくる</p>	<p>・自分の夢を持っていない子どもや大人の増加</p> <p>・人間関係の希薄さ</p> <p>・コミュニケーション能力の低下</p> <p>・規範意識の低下</p> <p>・自己中心的な個人主義の横行</p> <p>・学力格差の進行</p> <p>・家庭や地域の教育力の低下</p> <p>・学校があらゆる教育を請け負い、教師がゆとりを持って教育に専念できない</p>	<p>・開かれた学校づくりの推進(オープンスクール、学校評価の充実等)</p> <p>・生涯スポーツ推進事業の充実(市によるスポーツ教室の充実・スポーツイベントの増設・指導者養成講座設置等)</p> <p>・教員の増員、学校支援ボランティアの増員。学校事務のデータ化による先生と子どものふれあう時間や自分の研修を深める時間、施設や制度の充実。</p> <p>・放課後等学校で地域ボランティアによる希望者対象の「寺子屋」事業(仮称)等の創設</p> <p>・各公民館を利用して各種講座をNPO団体や大学等と連携しながら実施</p> <p>・「子育てサークル」等子育て支援事業の充実</p> <p>・市立図書館の充実、読書活動の啓発事業</p> <p>・宝塚特有の特色ある教育(例;総合的な学習の中に演劇のカリキュラムを入れる等)</p>
7	<p>子どもが子ども本来の生活(家庭・学校・地域において)をおくれる社会。</p> <p>一人ひとりの子どもが安心して過ごせる社会。</p>	<p>さまざまなニーズに対応できるようにするための人員を増やす。(多ければ多い方がいい)</p> <p>学校教育予算の拡大。</p>	<p>2004年7月30日の「中学校教育再生のための提言書(宝塚市教育再生プロジェクト会議より)」・2007年3月の「宝塚市幼小中教育プロジェクト委員会・提言書」に指摘されている子どもたちの実態がある。</p> <p>『いじめ』『不登校』『暴力』『学級(校)崩壊』『教職員の多忙化』『様々な格差の拡大』『保護者・地域の課題』など、様々な問題が山積している。ただ、このような課題に対する解決要求のほとんどが、「学校現場」のみに課される状況が多数を占める。</p>	<p>子ども一人ひとりのニーズにあったきめ細かな教育をするための定員増。「教育困難」校と言われる学校を中心に、教員の増員。(加配教員など)</p> <p>学校として子どもたちへ十分な教育活動ができるように、備品・消耗品費などの学校教育予算を確保する。</p>

No	目標	施策	課題	具体的な事業
8	確かな学力を身につけた子どもを育成する。	○学習定着度の把握。 ○学力が十分定着していない子どもへの補習授業等	学力を身につけている子どもと身につけていない子どもとの格差が広がっている。	学力定着度テストの実施 魅力ある授業づくり スクールサポーター事業の充実 補習授業の充実
9	規範意識を身につけ、豊かな心を持った子どもを育成する。	○学校園、家庭、地域の教育力向上、連携、協力強化。 ○学校園教育11年間スパンの推進(生徒指導)	規範意識の低下により、指導に従わない、授業妨害を繰り返す子どもが増加している。	道徳教育の充実 生徒指導の充実 学校における基本的な生活習慣の確立 子育てに関する学習機会の提供(幼稚園)
10	一般の人・幼い者・社会的に弱い者などあらゆる人に対する養護性・共感性・当事者性が高い子どもや大人が多く存在するインクルーシブな社会の実現	教育的視点から、若いうち(感性が柔軟なうち)から、幼いもの・社会的に弱いものと頻りに接することにより、養護性や共感性を高め、攻撃性を低められるような体験をする(=当事者性を高める)この体験学習には、地域居住する子どもよりも幼い世代および子どもより年長の世代も参画する	子どもも大人も、他者に対して共感性に乏しく、攻撃的である 家庭内にも学校・地域にもこの傾向は侵食している	小学校・中学校と地域の子育てサークル・児童館等とが連携して、児童・生徒が継続的に赤ちゃんや幼児およびその親とふれ合えるような体験学習を実施する 継続的(毎月1回、小3、4、5、6、中1、2で繰り返すなど)におこなうことが重要である この取り組みはカナダでは「ルーツオブエンパシ(NPO委託)」としてカリキュラム化され、共感性が高まり攻撃性が低くなることが証明されている
11	(学校に主に焦点を当てます) ○学校が子どもの実情や自らの教育力の特性・課題を分析し、改善策と共に保護者・地域に明瞭な形でアピールできる。→それを受けて保護者・地域が信頼協力する関係が全ての校園で成立する。 ○学校が不断に自らの課題を明瞭化できるよう、学校に資料が整っている。管理職・ミドルリーダーが機能する。教職員のベクトルがそろっている。	○管理職やミドル層の育成は既に盛り込まれているし重要だが、彼ら自身もあまり時間がなく1-3で述べられていることをこなす時間がない可能性がある。 ○すると当面は、教育委員会・センターさらに地元住民の有識者(別に教育学者でなくてもよい)を活用し、学校の「課題分析」のサポートをする体制を整えることがあってよいかもしれません。	○教員にはまだ個業意識が強く、一人で抱えきれない課題に対応している可能性がある→多忙感につながっている ○各学校の主体的な課題・改善策提示の先手が打てておらず、課題や保護者・地域からの要求等に後手に回る実態がある学校もあり得る(保護者の学校不安もある可能性がある)。	○当面の教育委員会事業として、新たな学校コンサルティング的な取り組みを加えることがあってよいと思います。(学力調査・学校アンケートの分析サポート、データマイニング手法実施のサポート、アドバイザーチームによる学校訪問・課題・解決策の絞り込みサポート) ○ただ、こういう事業は、学校が多忙で時間を割けない現状にたつもので、学校が無理なく経営サイクルにこういう作業を十分に組み込めれば、事業縮小してよいと思います。管理職のリーダーシップ発揮(教職員と共通理解を図る)の「追い風」になるような性格のものだとよい。

No	目標	施策	課題	具体的な事業
12	互いに喜び合い尊重し合う人間関係づくりの育成	学校長・教師の姿勢	先般の光明小学校の運動会はすばらしく、上記のことが成されつつあったことが嬉しい。	・めだかの学校(誰が先生か生徒かわからない)ではなく、すずめの学校を取り戻すこと。 ・学校長・教師の資質の向上を図る
13	子どもが安心して、落ち着ける居場所づくり	・いじめは犯罪であることを(ポスターあり)しっかりと教える。 ・人との比較でなく、友を尊び合う教育をする。	・家庭が落ち着かず、他の場所をはけ口としている。 ・コミュニケーションができない	・道徳教育の導入 ・偉人伝を読む(昔の人の生き方を今に生かす教育)
14	日本を誇るような日本人を育成する。	・日本のすばらしさ、国柄を学ぶ	・運動会に国旗を揚げない ・君が代を学ばない	・偉人、歴史上の人物・史実を学ぶ (吉田松陰etc 空海最澄etc 聖徳太子etc 天皇のお働き まだまだたくさんetc )
15	生命を大切にする子どもの育成	生命を大切にするとは、互いの使命に生きることを尊重すること。	・いじめが陰湿に行われている。 ・授業中活発に発言ができない。	詩・本の音読 親子・先生に良き講演をする。
16	美しい日本語を話す子どもを育成する。	本の音読 論語朗読	テレビ等で使われている言葉に慣れ親しんでいる。	世田谷区教育委員会が出している国語教育読本を参考に、毎朝の読書タイムに朗読する。 昔話をはじめ絵本を読む。また、聞かせる。

No	目標	施策	課題	具体的な事業
17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域全体で子どもたちを育てる社会の実現</li> <li>・塾通いのいない「確かな学力」の確立と学力水準の向上</li> <li>***理数教育の充実と科学するところの涵養***</li> <li>・スポーツ環境の充実とスポーツ振興を通じての子どもたちの体力水準の回復・向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の資質向上</li> <li>・学校組織力の向上</li> <li>・確かな学力の確立</li> <li>*理数教育の充実</li> <li>*理科推進員・理科特別講師等の数と質の向上⇔理科支援員等配置事業の活性化</li> </ul>	*子どもたちの理科離れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>*理科推進員・理科特別講師などの外部人材を積極的に発掘し活用を図る組織として「(仮称)理科人材コンソーシアム会議」の設置</li> <li>*理科外部人材の発掘と活性化を、広く学校支援ボランティアとなる外部人材の発掘にも拡大させ、学習支援活動や部活動指導等の充実に発展させて、塾通いのいない「確かな学力」の確立と学力水準の向上に繋げていく⇒地域全体で子どもたちを育てる仕組みづくり</li> <li>*学校支援地域本部との連携あるいは学校支援地域本部そのものに外部人材の発掘と活性化の機能を持たせることも検討課題</li> </ul>
18	子どもが人を大切に自分を大切に生きていけるような社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本音を言える、コミュニケーションをとれる場・機会・環境づくり</li> <li>・教職員の資質向上</li> <li>・行事をもっと大切に</li> </ul>	周りの人との関係が希薄 周囲(クラスなど)になじめていない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会</li> <li>・道徳教育の重要性</li> <li>・小学校・中学校でもお泊り保育(?)みたいな事をしてみてもいいのでは</li> </ul>



(仮称)宝塚市教育振興基本計画にかかる今後の基本的方向性・目標の設定

2009/10/

基本目標

自分を大切に 人を大切に 故郷を大切に作るひとづくり

今後10年を見通した教育の方向性

- 1 こどもの「生きる力」をはぐくみ、心豊かに社会を担う人材を育成する
- 2 学校園、教職員の教育力を高める
- 3 市民全体でこどもを応援する
- 4 生涯を通じて学ぶことのできる環境を充実する

検討委員会意見

- (1) 幼児教育の充実
- (2) 教育環境の整備、人的支援の充実
- (3) 家庭教育の充実
- (4) 保護者のネットワークの強化
- (5) 教職員の資質向上及び組織力の向上
- (6) 読書活動の充実
- (7) 学校支援体制の充実
- (8) 教職員の資質向上

今後5年間における取組

方向性	施策	重点事業	事務執行等成果指標の対象となる主要事業	
こどもの「生きる力」をはぐくみ、心豊かに社会を担う人材を育成する	教育福祉課題の解決	学びの機会均等の保障(教育費の負担軽減)	就学援助事業、奨学金事業、私立幼稚園奨励費補助事業	
		学びの成果の保障(学習成果の把握と対応)	学力定着度テストの実施(新)	
		スクールサポーター事業の充実	スクールサポーター(学生、教員OB、地域住民による指導補助)事業	
		外国人児童生徒等の教育及び海外子女教育の推進		
		特別支援教育の充実	就学指導委員会、なかよし運動会 ふれあい作品展、特別支援教育専門研修 特別支援教育交流事業 要介護児童生徒修学旅行同行支援 特別支援学級介助員配置事業 要介護児童生徒校外活動等支援 特別支援学級備品整備事業 学校園訪問相談事業 子ども支援事業「巡回相談」 子ども支援サポーター配置事業 北海道派遣事業	
		生徒指導の充実(いじめ、不登校、暴力行為等に対する取り組みの推進)	教育相談事業、適応教室「Pairたからづか」運営事業、市スクールカウンセラー配置事業、問題を抱える子ども等の自立支援事業、幼(保)・小・中連携教育推進による生徒指導体制の確立、学校支援チームの充実、自立支援施設の設置に向けた研究推進、教育関係機関との連携推進	
	健やかな体づくりの推進	体育および運動部活動の推進		中学校部活動外部指導者活用事業、部活動推進事業 (①対外課外活動参加補助②課外活動指導委託③施設使用料助成④部活動指導力向上)
		武道場の整備		武道場整備事業
		学校保健の充実		定期健康診断、学校保健会との連携など
		食育の推進		全学校での食育推進委員会の設立など
	時代に応じた生きる力の育成	情報教育の充実		スクールネット活用事業、教育用コンピュータ運用事業
		外国語活動の充実		ALT(外国人英語講師)の派遣、教員の授業力向上(新)小・中の連携(新)
		・理数教育の充実		理科おもしろ推進事業、理科備品等の整備
		道徳教育の充実		道徳教材の開発(新)
		人権・福祉教育の推進		人権文化創造活動支援事業、男女共生教育推進事業、人権教育教材の開発(新)、福祉読本の編集など
	環境教育の推進		学校版環境ISO事業	

方向性	施策	重点事業	事務執行等成果指標の対象となる主要事業
学校園、教職員の教育力を高める	学校教育を担う組織の充実	教育委員会制度の充実	教育委員会事務執行等評価事業
		・教育委員会会議の活性化	教育委員会の会議
		・幼(保)・小・中一貫教育の推進	幼(保)・小・中一貫教育モデル事業の推進(新)、西谷認定こども園・小・中の連携教育の情報発信、人権教育ブロック別実践研究事業
		・学校図書館の充実	学校図書館教育推進事業(図書館司書の配置) 学校図書館ネットワーク運用事業
		・学校園での研究体制の充実(学校園教育11年間スパンの推進を含む)	市指定研究、課題研修、幼(保)・小・中連携教育の研究及び推進(新)
		開かれた学校園づくりの推進	TAKARAっ子いきいスクール推進事業、ホームページの活用、評議員(幼稚園)学校評議員制度、オープンスクール
		・事務改善の促進	
		・学校規模の見直し	校区見直し
	学校教育を担う人材の確保・育成	幼児教育・保育の充実	公・私立幼稚園と保育所の連携 西谷認定こども園の活用 公立幼稚園の適正配置 幼稚園巡回カウンセリング
		教職員のヘルスプロモーション(体と心)	教職員健康相談業務
		・教員の確保	
		・管理職育成と主幹教諭の有効活用	管理職育成特別研修
		・教職員の研修体制の充実	現職研修、教養講座・情報教育講座、パワーアップナイト、教育シンポジウム 研究発表大会、委嘱研究 パワーアップ支援室の整備充実、幼稚園研修
	時代に応じた学校環境の整備	・魅力ある授業づくりの推進	新学習指導要領の完全実施に向けた対応の充実、学習システムを活用した授業方法の工夫・改善の推進
		安全・安心な学校園の整備・充実	バリアフリー化 耐震化の促進 老朽化に伴う大規模改修 学校園安全対策 スクールガード事業、青少年補導事業、「アトム110番連絡所」事業 (①防犯ブザーの貸与 ②防犯訓練の実施③すみれ安全マップの配布)
		安全・安心な学校給食の提供	給食事業の効率化 食物アレルギー対策の教科
		・情報教育の基盤整備	校内LAN整備事業、学校ICT整備
		・環境にやさしい学校園づくり	緑のカーテン事業、太陽光パネル設置事業

方向性	施策	重点事業	事務執行等成果指標の対象となる主要事業
市民全体でこどもを応援	家庭・地域との連携にもとづく子どもの発達支援	・体験活動の充実	小学校体験活動推進事業、トライやるウィーク事業
		・基本的な生活習慣の確立	早寝・早起き・朝ごはん運動、挨拶運動の推進(新)、家庭との連携強化、啓発活動
		・伝統・文化等に関する教育の推進	中学生宝塚歌劇鑑賞事業、のびのびパスポート等事業、邦楽のつどい
		・子育て支援事業の充実	参観日支援、園庭開放、未就園児親子教室等の開催、家庭教育支援事業(人権)
生涯を通じて学ぶことのできる環境を充実する	学びの成果で地域を変える	・誰もが学べる場と機会を整える	図書資料の充実、特色ある講座・セミナーの企画
		・地域の学習資源を集め、役立てる	みんなの先生の確保、民族資料館の活用、自然の家の活用、たからづか学校応援団の充実
		・人と人とのつながりを築く	公民館まつり、サマースクール、障害者学級、アウトリーチ講座
		・学びあいを通じて地域を考える	学習グループの育成・支援、図書ボランティアの育成
		・家庭と地域の連携を強めて学校を支える	学校図書ボランティアの支援、地域児童育成会、放課後子ども教室
	新鮮な学習情報を発信する	・魅力ある図書館づくり	調査相談業務の充実(調査資料のデジタル化による整理・蓄積)、学校図書館の支援と連携(学校図書ボランティアの指導と育成)
		・ホームページの開設と更新	ホームページ(公民館、民族資料館、自然の家)
	歴史と文化を守り活かす	・文化遺産の保全承継と活用	文化財保護事業
		・郷土資料の収集と情報発信	市史編集事業
	市民個々のスポーツライフを支援する	・スポーツ意識の啓発	
		・スポーツ施設の整備	スポーツセンター施設整備事業、学校開放事業
		・スポーツ機会の提供	市民スポーツ大会・教室等事業、宝塚ハーフマラソン大会
・スポーツ活動の充実		スポーツクラブ21支援事業	